



認証番号 0003625

# 環境経営システム エコアクション 21

## 環境経営レポート



# 成光運輸株式会社

令和4年度版（令和4年7月1日～令和5年6月30日）

令和5年11月30日発行

## 目 次

- ①組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.2
- ②環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.3
- ③認証・登録対象範囲及び実施体制・・・・・・・・P.4
- ④過去の環境負荷実績・・・・・・・・・・・・・・・・P.5
- ⑤環境経営目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.7
- ⑥令和4年度環境経営目標と取組内容及び結果評価・・・・・・・・P.8
- ⑦環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無・・・P.17
- ⑧代表者による全体の評価と見直し・指示・・・・・・・・P.17

## ① 組織の概要

事業所名	成光運輸株式会社
代表者名	代表取締役 飯沢 宗光
所在地	〒193-0931 東京都八王子市台町三丁目 27 番地 19 号
連絡先	TEL : 042-624-7530 FAX : 042-623-0812
環境管理責任者名 及び連絡先	飯沢 由里香 E-mail : iizawa0524@bb.wakwak.com ※環境に関する連絡のみのメールアドレスですので、 ご注意ください。
事業活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●限定区域貨物自動車運送事業 (昭和 40 年 12 月 13 日許可 65 東陸自 2 貨 1 第 2451 号)</li> <li>●一般区域貨物自動車運送事業 (昭和 59 年 4 月 4 日許可 84 東陸自 2 貨 2 第 526 号) (平成 11 年 6 月 17 日許可 関自振第 1757 号)</li> <li>●自動車運送取扱事業 (平成 2 年 10 月 25 日登録 関運自登第 12548 号)</li> <li>●軽車両等運送事業 (昭和 60 年 4 月 8 日届出)</li> </ul>
創 立	昭和 40 年 12 月 20 日
資 本 金	1,000 万円
従 業 員 数	19 名
敷 地 面 積	722 m <sup>2</sup>
事 務 所 面 積	70 m <sup>2</sup>
倉 庫 面 積	70 m <sup>2</sup>
売 上 高	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和 2 年度 (R2 年 7 月 1 日～R3 年 6 月 30 日) : 207 百万円</li> <li>●令和 3 年度 (R3 年 7 月 1 日～R4 年 6 月 30 日) : 202 百万円</li> <li>●令和 4 年度 (R4 年 7 月 1 日～R5 年 6 月 30 日) : 193 百万円</li> </ul>
保有車両数	19 台 4 トン車 (ウイング型) …4 台      3 トン車 (平ボディ型) …2 台 2 トン車 (ウイング型) …1 台 2 トン車 (バン型) …9 台 (うち、1 台パワーゲート付) 軽貨物車…1 台      乗用車…2 台

## ② 環境経営方針

### 基本理念

成光運輸株式会社は、創業から半世紀に亘り、関東首都圏を中心とした運輸業を営んでおり、環境問題が21世紀の世界共通の課題であることを深く認識しています。輸送事業者としては、守るべき最低限のルールである法令遵守は当然のことですが、公共の道路を利用して事業を営んでいるほか、環境や安全にも多大な影響を及ぼしていることから、より環境問題に積極的に取り組むべき社会的責任が求められています。

また国内貨物輸送の約9割はトラック輸送が担っていますが、近年「ドライバー不足」やこれに伴う「ドライバーの高齢化」が課題となっています。

これからの成光運輸株式会社は、人と地球にやさしい環境づくりに貢献するための環境保全と安全輸送を強化し、更には全従業員の健康維持増進を図る健康経営に取り組み、事業継続経営100年をめざしていきます。

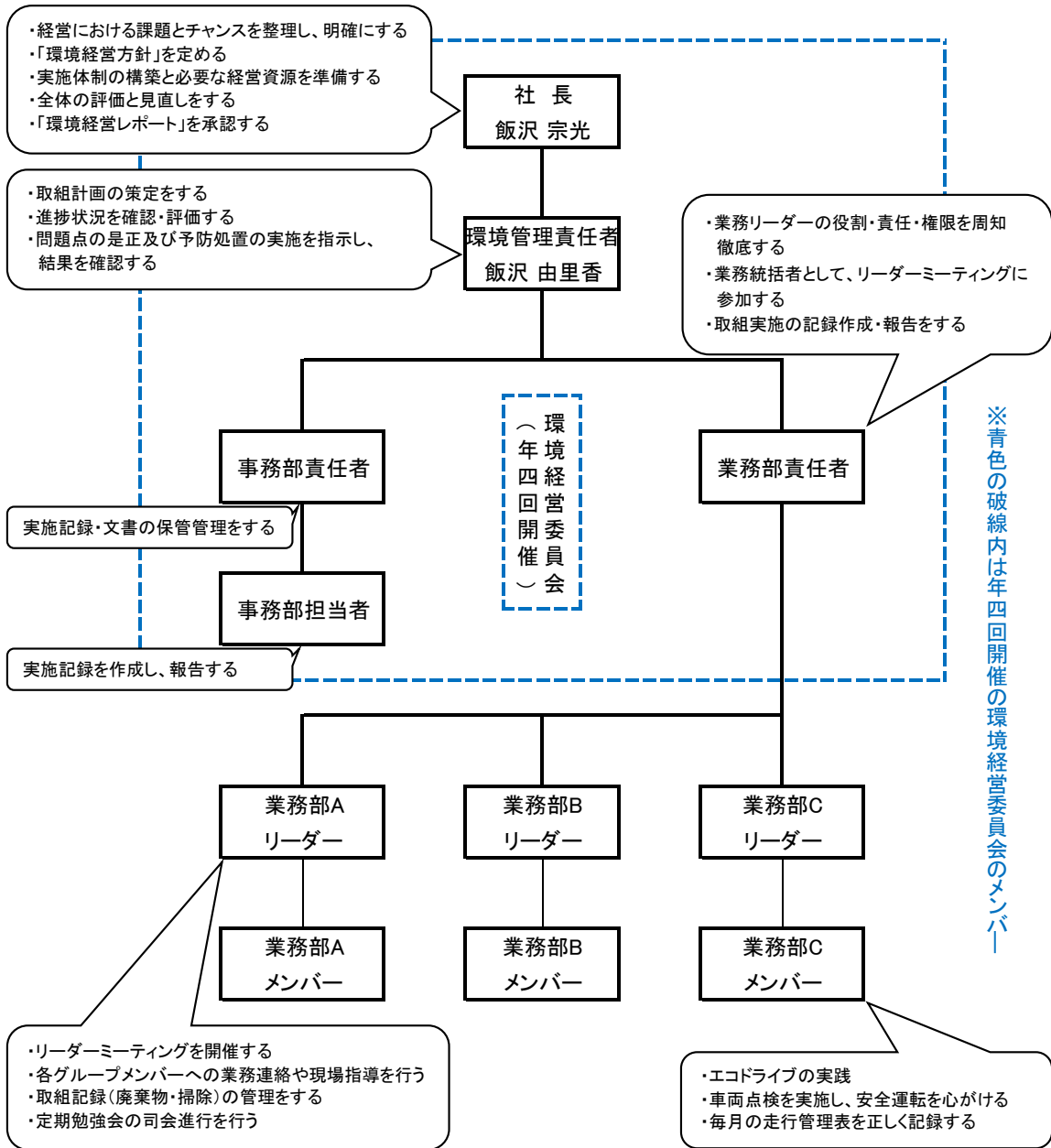
### 方針

1. 環境経営システムを構築・運用し、環境経営に積極的に取り組むことにより、継続的な環境負荷の削減に努めます。
2. 当社に適用される環境関連の法規制等を遵守します。
3. 当社の事業活動を踏まえ、重点的に以下の環境経営活動に取り組みます。
  - (1) 二酸化炭素排出量の削減
    - ① 電気使用量の削減
    - ② ガス（LPG）使用量の削減
    - ③ 車両燃費の向上
  - (2) 水使用量の削減
  - (3) 廃棄物排出量の削減
  - (4) エコ製品の積極的購入
  - (5) 地域貢献活動の実施
4. この環境経営システムの機能を効果的・効率的に推進していくために、社内の実施体制を確立し全従業員への環境教育に努めます。また、全従業員が健康への自己管理ができるような衛生教育に努めます。
5. この環境経営方針を達成するために、環境経営目標を設定し、定期的に見直し環境経営改善に努めます。

令和3年7月1日 成光運輸株式会社  
代表取締役 飯沢 宗光

### ③ 認証・登録対象範囲及び実施体制

- ・取組の対象は、当社の全組織・全活動とする。
- ・環境経営システムを構築・運用し、環境経営への取組を効果的に実施推進するための組織図及び各員の役割を定める。



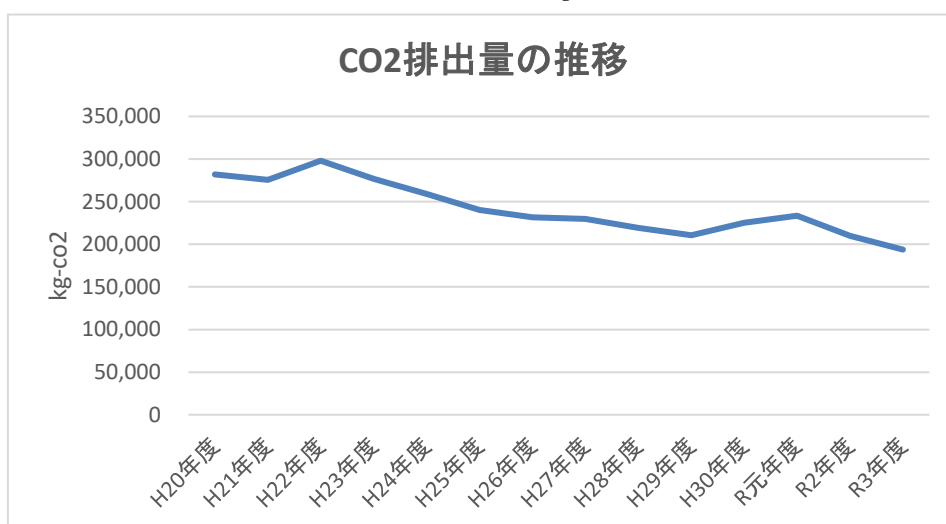
#### ④ 過去の環境負荷実績

##### 【「エコアクション 21」開始以降 14 年間の二酸化炭素排出量の推移について】

##### ●二酸化炭素排出量（平成 20 年度～令和 3 年度）

CO2 排出量	単 位	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
	kg-CO2	281,828.41	275,732.52	298,068.41	276,749.91	258,999.59
CO2 排出量	単 位	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
	kg-CO2	240,160.07	231,709.62	229,886.98	219,140.00	210,463.39
CO2 排出量	単 位	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	
	kg-CO2	225,428.87	233,662.72	210,022.13	193,793.99	

※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.441 kg-CO2/kWh（R2 年度実績調整後排出係数）使用



##### 【過去 3 年間（令和元年度～令和 3 年度）の重点的取組 7 項目の実績について】

##### ●電気・化石燃料使用量及び二酸化炭素排出量

項 目		単 位	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
電気	使用量	kWh	5,429	6,382	6,919
	CO2 排出量	kg-CO2	2,394.19	2,814.46	3,051.28
ガス (LPG)	使用量	kg	373.22	433.04	501.16
	CO2 排出量	kg-CO2	1,119.66	1,299.13	1,503.48
軽油	使用量	ℓ	87,720.25	78,359.67	71,929.77
	CO2 排出量	kg-CO2	226,318.25	202,167.95	185,578.81
ガソリン	使用量	ℓ	1,651.13	1,612.32	1,577.77
	CO2 排出量	kg-CO2	3,830.62	3,740.58	3,660.43
CO2 排出量合計		kg-CO2	233,662.72	210,022.13	193,793.99

※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.441kg-CO2/kWh（R2 年度実績調整後排出係数）使用

## ●水使用量の削減

項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
水使用量	m <sup>3</sup>	72.0	88.5	89.5
総排水量	m <sup>3</sup>	72.0	88.5	89.5

令和2・3年度は、コロナ禍により出社・帰庫時の手洗いを徹底した為、水使用量が増加した。

## ●廃棄物排出量の削減

項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資源紙ごみ	kg	366.0	393.3	323.9
可燃ごみ		101.6	55.9	61.6
不燃ごみ		35.2	48.5	39.6
廃棄物総排出量	kg	502.8	497.7	425.1

令和元年度は、倉庫内の片付けにより、可燃ごみ（古毛布）が増加した。

資源紙ごみの含有率は、毎年70%以上を占めている。

## ●エコ製品の積極的購入

項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
対象物品の購入	%	100	100	100

対象物品は、事務用品（コピー用紙等紙製品、文具類）、チャート紙（運行記録紙）、ティッシュペーパー等の日用紙製品、コピー機である。

## ●地域貢献活動の実施

項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
施設周辺の清掃回数	回	52 (4回/月)	69 (5回/月)	75 (6回/月)

地域貢献活動として、施設周辺（事業所前の公道や隣接水路等）の清掃をしている。

## ⑤ 環境経営目標

・重点的取組7項目の環境経営目標について述べる。

項目	基準年	環境経営目標		
	令和2年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
(1)二酸化炭素排出量の削減	210,022.13 kg-CO2/年	R2年度比 3%削減 203,721.47 kg-CO2/年	R2年度比 4%削減 201,621.24 kg-CO2/年	R2年度比 5%削減 199,521.02 kg-CO2/年
①電気使用量の削減	6,382kWh/年	R2年度比 同値 6,382kWh/年	R2年度比 同値 6,382kWh/年	R2年度比 同値 6,382kWh/年
②ガス(LPG)使用量の削減	433.04kg/年	R2年度比 同値 433.04kg/月	R2年度比 同値 433.04kg/月	R2年度比 同値 433.04kg/月
③車両燃費の向上	【軽油】 6.91 km/ℓ	R2年度比 2%向上 7.05 km/ℓ	R2年度比 2%向上 7.05 km/ℓ	R2年度比 2%向上 7.05 km/ℓ
	【ガソリン】 15.18 km/ℓ	R2年度比 同値 15.18km/ℓ	R2年度比 同値 15.18km/ℓ	R2年度比 同値 15.18km/ℓ
(2)水使用量の削減	88.5 m <sup>3</sup> /年	R2年度比 2%削減 86.7 m <sup>3</sup> /年	R2年度比 2%削減 86.7 m <sup>3</sup> /年	R2年度比 2%削減 86.7 m <sup>3</sup> /年
(3)廃棄物排出量の削減	497.7kg/年	R2年度比 5%削減 472.8kg/年	R2年度比 7%削減 462.9kg/年	R2年度比 9%削減 452.9kg/年
(4)エコ製品の積極的購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入
(5)地域貢献活動の実施	施設周辺掃除 48回/年 (4回/月)	施設周辺掃除 48回/年 (4回/月)	施設周辺掃除 48回/年 (4回/月)	施設周辺掃除 48回/年 (4回/月)



## ⑥ 令和4年度環境経営目標と取組内容及び結果評価

項目	環境経営目標	実績	評価
(1)二酸化炭素排出量の削減	203,721.47kg-CO2/年	169,606.05kg-CO2/年	○
①電気使用量の削減	6,382kWh/年	6,041kWh/年	○
②ガス(LPG)使用量の削減	433.04kg/年	386.88kg/年	○
③車両燃費の向上	【軽油】 燃費 7.05km/ℓ	【軽油】 燃費 7.43 km/ℓ	○
	【ガソリン】 燃費 15.18 km/ℓ	【ガソリン】 燃費 14.70 km/ℓ	×
(2)水使用量の削減	86.7 m <sup>3</sup> /年	77.0 m <sup>3</sup> /年	○
(3)廃棄物排出量の削減	472.8kg/年	1,031.1kg/年	×
(4)エコ製品の積極的購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	○
(5)地域貢献活動の実施	施設周辺掃除 48回/年(4回/月)	施設周辺掃除 63回(5回/月)	○

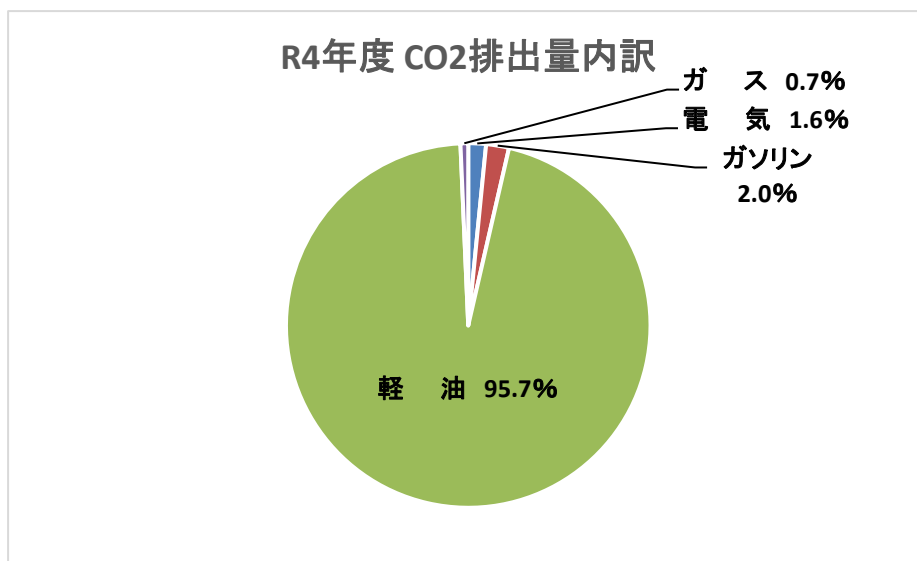
※評価については、単純評価（目標達成：○ 未達成：×）とする。

### ●電気・化石燃料使用量及び二酸化炭素排出量

項目		単位	令和4年度
電気	使用量	kWh	6,041
	CO2 排出量	kg-CO2	2,664.08
ガス (LPG)	使用量	kg	386.88
	CO2 排出量	kg-CO2	1,160.65
軽油	使用量	ℓ	62,921.92
	CO2 排出量	kg-CO2	162,338.55
ガソリン	使用量	ℓ	1,483.95
	CO2 排出量	kg-CO2	3,442.76
<b>CO2 排出量合計</b>		<b>kg-CO2</b>	<b>169,606.05</b>

※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.441kg-CO2/kWh（R2年度実績調整後排出係数）使用

※ガス（LPG）1 m<sup>3</sup>=2.07 kg



例年同様、令和4年度のCO2排出量は95.7%が貨物自動車の軽油使用からであった。年間保有車両数や走行距離数が毎年一定ではない為、貨物自動車全車の平均燃費を算出し燃費を向上させることがCO2削減に繋がる。そこで、この貨物自動車燃費を上げていくことに注力する。

次に、各項目の主な取組内容を紹介し、結果に至った考察を述べる。

●電気使用量の削減

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内の電気をこまめに消す</li> <li>・エアコン設定温度を冷房 27℃、暖房 22℃にする</li> <li>・エアコン使用頻度を減らす</li> <li>・退社者が最終消灯チェックをする</li> </ul>	6,382kWh/年	6,041kWh/年 目標値より 5%減少	○



照度を測定し、必要最小限の照明で始業開始  
全照明はLED化し、日常間引き点灯する



節電・消し忘れの意識づけシール

考 察
<p>令和4年度の電気使用量は目標値より5%の削減となり、目標達成できた。</p> <p>電気使用量は、夏季（7～9月）や冬季（12～2月）のエアコン使用頻度により毎年増減する。今年度8月は特に猛暑日が続き、八王子では日が昇るとともに朝から30℃を超える暑さであった。</p> <p>長期にわたるコロナ対策の換気ということで、常時開窓しているために冷暖房の効き目が悪く、夏場の室温を28℃、冬場は20℃とする設定は厳しいものであった。8月や翌年1月は、目標値を大幅に超える電気使用量となったが、エアコン未使用月で目標値より何とか使用量を減らすことができた。</p> <p>次年度も従来の取組を確実に実施し、目標値を上回る削減を狙う。</p>



●ガス（LPG）使用量の削減

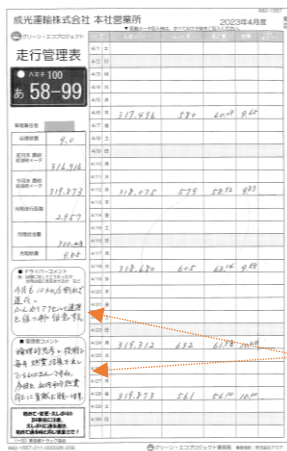
取組内容	環境目標	実 績	評 価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガストーブ使用頻度を減らす</li> <li>・室温20℃以下でガストーブを使用</li> </ul>	433.04kg/年	386.88kg/年 目標値より10%減少	○

 <p style="text-align: center;">室温・湿度を 温湿度計で確 認する</p> <p>毎日10時・15時に 室温記録をとり、冷 暖房機器を使用し ている</p> 	<p style="text-align: center;">ひざ掛けは冬期の必需品ですね</p> 
---	--

考 察
<p>令和4年度のガス使用量は、電気使用量同様に目標達成した。</p> <p>11月からガス暖房を使い始めているが、毎日室温を見ながらガス暖房を付けたり消したりしている。肌寒さをカバーするために膝掛けや重ね着は勿論の事、足首を温めるレッグウォーマーを着用したり、フットウォーマー等を使用する日常である。</p> <p>暖房器具としては、ヒーターエアコンより断然ガス暖房の方が部屋全体の空気を暖め、長時間持続するという利点がある。</p> <p>ただ使用量は気候に左右されるが、引き続き室温・湿度管理を“見える化”し使用することが大切だと感じている。</p> <p>次年度は、令和2年度比3%削減の420.05kg/年をめざす。</p>

●車両燃費の向上


取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自社の「エコドライブ十箇条」(※1)を守る</li> <li>・所属協会のグリーン・エコプロジェクト(GEP)(※2)参加により、ドライバー自身が走行管理表を記録し、燃費を把握する</li> <li>・燃費結果やアナログ運行記録計から、不適切な走行ドライバーには定期的指導教育を行う</li> <li>・毎月の安全運転教育を実施する。</li> <li>・近距離の移動には徒歩や自転車を利用し、遠距離の移動にはできる限り公共交通機関を利用する</li> </ul>	<p>【軽油】 燃費 7.05km/ℓ</p>	<p>【軽油】 燃費 7.43km/ℓ 目標値より 5%向上</p>	○
	<p>【ガソリン】 燃費 15.18km/ℓ</p>	<p>【ガソリン】 燃費 14.70km/ℓ 目標値より 3%低下</p>	×
<p>(※1)「エコドライブ十箇条」とは… 平成 26 年 5 月、ドライバー全員で自社独自のエコドライブ十箇条を作成した。同年 8 月に実践状況から一部内容改訂を行った。ギアチェンジの適切なタイミング回転数や高速道路走行 80 km/h 厳守など、自社ドライバーが守るべきエコドライブ内容である。</p>			
<p>(※2) グリーン・エコプロジェクト (GEP) とは… 「東京都トラック協会では、2006 年に新規事業として地球温暖化防止対策の対応を図るため、独自の CO2 等削減対策を盛り込んだ『グリーン・エコプロジェクト』を立ち上げた。『グリーン・エコプロジェクト』では、車両ごとに収集した燃費からデータベースを構築し、継続的なエコドライブ活動を推進・支援、CO2 排出量の削減や燃費向上に伴うコスト削減、事故防止等に向けた取り組みを展開している。 『グリーン・エコプロジェクト』の最終目標は、経営者・管理者・ドライバーの従業員一人一人が環境意識の向上による社会貢献・社会責任を主軸とした“環境 CSR(環境から進める経営改善)”を目指している。そのために、レベルアップセミナーや講習会を開催して、環境関連資料やドライバーのモチベーションを高める教育資料を提供し、環境問題に能動的に取り組めるよう支援している。このように継続的な活動を行うことで以下の 4 つの改善を図ることができ、“環境 CSR”へとつながっていく。 ①社内環境の改善 ②交通事故減少 ③コスト削減対策 ④地球温暖化防止対策 (東京都トラック協会 HP より)</p>			
	<p>トラック運送事業者の交通安全対策等の取組みを評価し、一定の基準をクリアした事業所を「安全性優良事業所(G マーク)」として認定公表する制度</p>		
	<p>東京都貨物輸送評価制度とは、都内に貨物を運送する緑ナンバー事業者を対象とし、CO2 削減取組を燃費データに基づき 3 段階評価する制度</p>		



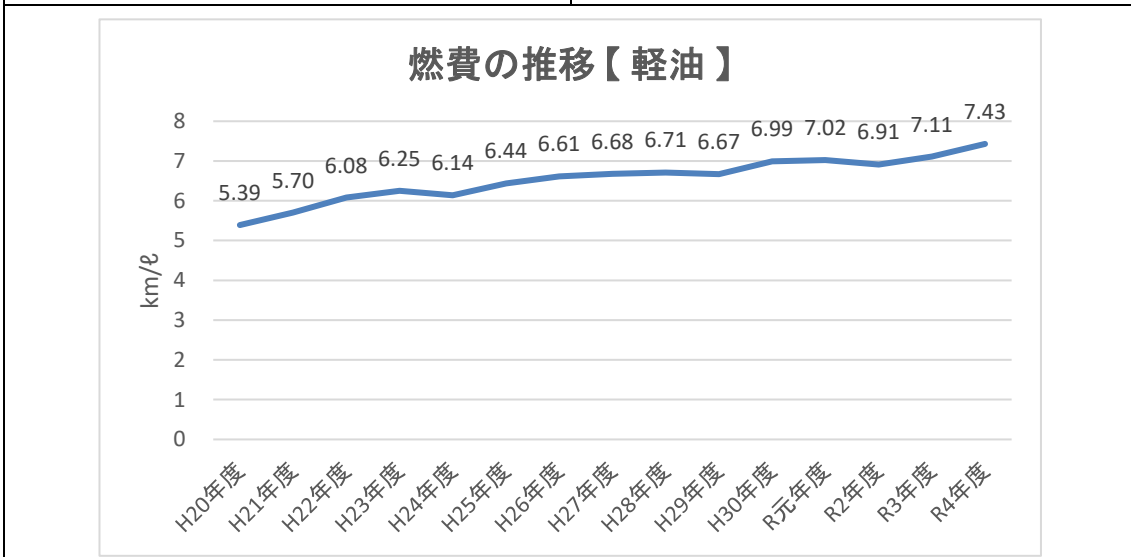
**走行管理表**

毎月、ドライバーが担当車両の燃費目標値を定め、給油のたびに燃費を記録し、月間平均燃費を算出する自身の目標値と比較して走行を振り返る

ドライバーと管理者両者からのコメントを記載



毎月 GEP 教育資料を基に、安全運転教育を実施している



### 考 察

令和4年度の貨物車両（軽油使用）の燃費は、目標値より5%向上し目標達成した。

今年度の全貨物車両（2t～4t 計16台）の平均燃費は、軽油1ℓあたり7.43kmとなり、取組開始以来大幅に燃費を延ばし、正直驚いている。特にベテランドライバーによるエコドライブへの継続的な熱意と技術が功を奏したと思う。

日々の天候や荷量・走行距離は燃費にも影響する。そこでその時々々の道路状況や荷量等の変化に対応しながら安全な速度で走ることは勿論、地道にエコドライブを継続する根気も必要とされる。そもそも、全ドライバーが一丸となり、1つの目標を目指して頑張る姿は当社の誇りである。

またガソリン使用の軽貨物車や社長の乗用車もトラック同様燃費を算出しているが、残念ながら目標より3%低下してしまっただけでなく、社内組織全体で取り組むことに意義がある。

安全性優良事業者認定の「Gマーク」や東京都貨物輸送評価2つ星の取得に恥じない走行をしなければならない。そのためには、各走行管理表や燃費結果表、チャート紙（運行記録紙）を基に管理者からドライバーへの指導も重要である。

そこで、管理者を対象とした GEP セミナーを管理者自身が継続的に受講し、ドライバーへの環境・安全教育に役立てることが、お互いのレベルアップに繋がると考える。  
 次年度は、全貨物車両燃費 令和 2 年度比 4% 向上 7.19 km/ℓ に取り組む。

●水使用量の削減

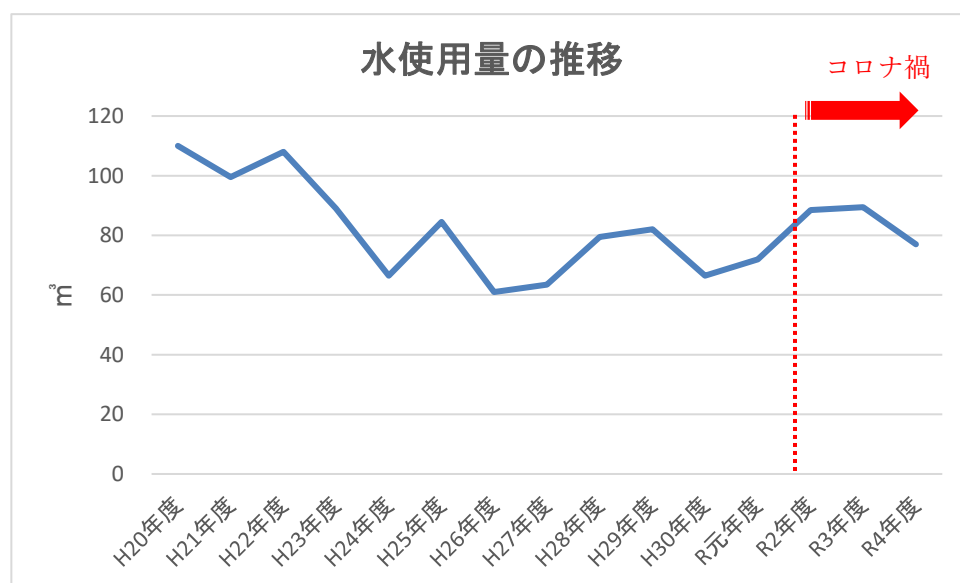
取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>水道配管やトイレタンクからの漏洩を確認する</li> <li>洗車時、水量調節レバーを使用する</li> <li>トイレ洗浄水は大小区別する</li> </ul>	86.7 m <sup>3</sup> /年	77.0 m <sup>3</sup> /年 目標値より 11% 減少	○



感染症対策をしながら環境対策も実施



トイレの流水区別と節水注意書き



考 察
<p>令和4年度の水使用量は、目標値より11%減少し目標達成した。</p> <p>今年度もコロナ禍による出社・帰庫時の手洗いを継続している。取組内容は従来通りとし、手洗い場やトイレに目につくよう節水ステッカーを貼り、意識づけしている。</p> <p>車両洗車では、一度に車内外の清掃で水を使うとかなりの水量を使用する。そこで、まとめて清掃するのではなく、日々こまめに車内外の拭き掃除をすることを勧めている。水使用量の削減だけでなく酷い汚れにもならないため、車両は長く大切に使うという愛車精神を高めることにも繋がるはずである。</p> <p>次年度も、コロナ対策を続行しながら節水への意識を持ち、取り組む。</p>


●廃棄物排出量の削減

取組内容	環境目標	実 績	評 価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの分別排出を徹底し、資源化を推進する</li> <li>・コピー用紙の裏面使用を徹底する</li> <li>・ドリップコーヒー粉は乾燥させ、可燃ごみに出す</li> <li>・個人ごみは持ち込み禁止とする</li> <li>・一度使用した事務用品や業務備品等の再利用化を図る</li> </ul>	472.8kg/年	1,031.1kg/年 目標値より118%増加	×
 <p>令和4年4月から分別方法が変わる</p>		 <p>ドリップコーヒー粉は乾燥させている</p>	
 <p>紙類のリサイクルは社会福祉法人が回収し、資金として利用してもらう</p>		 <p>社員への連絡には、名前付きファイルを使用している</p>	


考 察
<p>令和4年度の廃棄物排出量は年間1,031.1 kgであり、目標値をはるかに超えた排出量で未達成となった。</p> <p>この理由は、倉庫内の片付けを行い全廃棄物量の57%を占める産業廃棄物590.0 kgが排出されたことである。その点を除けば目標達成できたと考えるが、よい仕事をするには5S活動は欠かせない。</p> <p>事務所社員各人は裏紙使用の小さなメモ用紙さえ集めてリサイクルするようにしている。またごみ箱の設置を最小限にし、時折ごみの中身をチェックしている。</p> <p>また定期的に机の引き出しや周辺の整理整頓をすることは、余分な事務用品の在庫をかかえずに済み、ごみ削減に繋がるはずである。</p> <p>次年度も、引き続き従来の取組を確実に実施し、更なる削減を図る。</p>

●エコ製品の積極的購入

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコマーク品や再生紙品を積極的に購入し、使用に努める</li> <li>・エコ製品対象物品（紙製品・文房具類）だけに留まらず、日用品についても環境配慮製品を積極的に購入する</li> </ul>	<p>対象物品の 100%購入</p>	<p>対象物品の 100%購入</p>	○



65%のリサイクル素材を含む



環境ラベル付き商品や再生紙を選んでいる

考 察
<p>今年度も目標を達成した。</p> <p>紙製品の購入には、担当者が全てエコ製品か否かをチェックしている。</p> <p>ユニフォーム（ポロシャツ）においてはリサイクル素材含有のものを取り入れているが、着心地も良く、季節に応じて色分けしている。</p> <p>またペーパー類の日用品は、リサイクル製品を積極的に選び購入している。</p> <p>次年度も、引き続き目標達成に取り組む。</p>



## ●地域貢献活動の実施

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所前公道や排水路を 月 4 回掃除する</li> <li>・水辺の水護り制度(※3)に登録し、水路保全活動を実施する</li> <li>・地域住民との対話を心掛ける</li> </ul>	施設周辺掃除 48 回/年 (4 回/月)	施設周辺掃除 63 回/年 (5 回/月)	○
<p>(※3) 水辺の水護り制度とは…</p> <p>八王子市が管理している公園や緑地、道路等を町会・自治会、市民グループ、学校、企業等の 5 名以上の団体（水辺の水護り制度は個人も可）を対象とし、清掃や除草等のボランティア活動を実施する申請登録制度（八王子市公共施設アドプト制度）である。このようなアドプト制度には、公園アドプト制度、道路アドプト制度、水辺の水護り制度がある。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>水路清掃前</p>  </div> <div style="font-size: 2em; color: #ccc; opacity: 0.5;">➔</div> <div style="text-align: center;"> <p>清掃後</p>  </div> </div>			
考 察			
<p>令和 4 年度は、年間 63 回の施設周辺清掃が実施でき、目標達成した。</p> <p>相変わらず、水路や公道側溝にたばこの吸殻や食品包装ごみ等が頻繁に捨てられている。この光景は、特に週明けに多い。</p> <p>ごみが捨てられている場所には、誰かがまたごみを捨てるという悪循環が起きる。公共の場所に平気でごみを捨てる人への警告として、掃除は必要だと考える。</p> <p>また、夏場の水路周辺は草の繁茂だけでなく苔の発生も見られるようになった。</p> <p>誰かが気かけなければ「住みよいまちづくり」には貢献できない。また住宅地の中に位置する当社にとって、出庫や帰庫時の車両走行は静かな徐行運転としているが、この地で長年事業を営むことができているのは、近隣住民の理解があつてのことと考える。</p> <p>次年度も、引き続き施設周辺の掃除を月 4 回以上実施する。</p>			

## ⑦ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果,並びに違反,訴訟等の有無

環境関連法規の該当する要求事項を整理し一覧表にまとめ、毎年定期的に遵守状況の確認及び評価を実施している。

令和4年度は、令和5年6月30日に確認し、評価結果は「適合」であった。違反・訴訟は無く、近隣住民からの苦情も無い。

関連法規等	主な適用範囲	評価結果
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・一般廃棄物の排出	適合
	・産業廃棄物の排出	適合
自動車リサイクル法	・使用済自動車の排出	適合
自動車NOx・PM法	・トラックによる輸送・配送	適合
貨物自動車運送事業法	・トラックによる輸送・配送	適合
道路運送車両法	・トラックによる輸送・配送	適合
道路交通法	・トラックによる輸送・配送	適合
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	・トラックによる輸送・配送	適合
八王子市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	・事業系(産業)廃棄物の排出	適合
八王子市下水道条例	・汚水の排出	適合

## ⑧ 代表者による全体の評価と見直し・指示

「環境経営システムエコアクション21」の取組み15年目となった今年度も、順調にサイクルをまわし、部署ごとに環境配慮への努力を惜しまず取り組んでいた。

今年度は、「廃棄物排出量」と「ガソリン車の燃費向上」が未達成となった。

最も地球温暖化を増強させる二酸化炭素排出量については、全排出量の95%以上を占めている貨物自動車燃料の軽油使用量の削減に毎年力を入れている。この軽油使用量削減への取組として燃費を上げることは、エコドライブを積極的に実施することである。更に、昨今の燃料代の高騰による経費を少しでも削減することに繋がり、会社経営にとっても大きなメリットである。

今後も引き続き環境配慮・安全配慮・健康配慮に力を入れる。

